

ある範圍を指示し、無軌條式電車と道路、車輛と速度及建設費に就て詳説してゐる。氏が曩年歐米各地を視察したとき、軌道のことを視ると同時に軌條を脱して視察した澤山のものがあるうちに、是だけはと思つて特に重視したものが無軌條式電車であつたさうだから、本書は其の復命書と言つても可い、併し此電車が我國に於て發達するか否かは別であるが、兎も角之に就て何等の文獻を持たない我國に於て之を筆にしたのは蓋し本書を以て嚆矢とする。

以上は私が本書を一瞥した感想と其の内容の概要を紹介したに過ぎない、若し夫れ技術的見地殊に道路工學の立場からするときは批評すべき點があるであらうが、夫れはいつも道路技術と軌道技術の對立に就て議論してゐる三浦七郎君等の批評に俟つが、唯だ本書の司つてゐる範圍が頗る廣汎に亘つて、獨り軌道と言はず道路は勿論のこと都市計畫の領域に及んでゐるから、是等のことを目的とする學徒又は實務家であつて、技術家たると事務家たるとを問はず是非必讀すべき良著として推奨する。(東京常盤書房發行 定價三圓八十錢)

◎東大寺の坊主と 奈良市内國道問題

昔、後白河法皇は叡山の坊主の専恣を怨まれた、實際坊主程御し憎いものはない、昭和の御代と爲つても矢張り變らないから困つたものだ。今度奈良縣が京街道と言はれてゐる國道が、奈良朝時代のものので交通の用を便しな言ふので、東大寺と轉書門との間を選擇して國道を附替える計畫を樹て奈良の惡路を近代的のものに改良しやうとした。

ところが、お坊さん達、何と考へたのか知ら、東大寺の區劃は奈良朝時代のものと同一したから史跡として價値がある。そこに國道が出来て民家が建つたら、一千餘年の史跡を燬滅するし轉書門が東大寺伽藍の門としての性質を失つてしまふと言ひ出した、夫れの尻馬に乗つて騒ぎ出したのは、歴史國文美術建築に關する老博士、暇潰しに内務や文部へ反對の陳情。

坊さんの言ふ東大寺の區劃は奈良朝時代のもの、其の大部分は民有地に爲つてゐるのに、まだ昔のやうに東大寺の支配地と心得てゐる、今は昭和の御代、土地所有權は憲法が保障してゐて、其の土地に所有者が家を建てやうと、門を強らうとは所有者の自由だ、夫れに心附かないで騒いだ運動に學者連も盲動した態、非法律的陳情成る程尻馬に乗つた連中には法博がなかつた。
近代道路を拵えやうとすれば奈良朝時代のものでも可いと
言ひ出す、奈良はいつ迄も舊時の奈良で、近代文明に惠ま
れやうとはしない、路政執行の爲には、こんな坊主や學者
を相手にせなければならぬと言へば容易のことでない、モ
少し覺醒してはド、お坊さん。(た)